

地球規模での温暖化対策に資するとともに、CO<sub>2</sub>排出抑制対策としてコスト効果が高いと期待されることから、国内対策の補完措置として重要であると認識

## 〈電気事業の主な取り組み〉

京都議定書で定められた共同実施(JI)・クリーン開発メカニズム(CDM)を目指したバイオマス発電、熱効率改善事業など温室効果ガス削減に資する事業を海外で展開

世界銀行の炭素基金や我が国の産業界が一体となって参画している日本温暖化ガス削減基金(JGRF)等へ出資

2010年までのCO<sub>2</sub>削減貢献見込量：3,000万t-CO<sub>2</sub>程度

⇒ 排出原単位は2～3%程度向上の見込み

取得したクレジットをCO<sub>2</sub>排出係数に反映できるようにしていただきたい。

## 電気事業者による海外での温室効果ガス削減プロジェクト外例など

### 【国連CDM理事会承認プロジェクト例】

件名	実施国	概要
養豚場尿由来メタンガス回収・燃焼プロジェクト	チリ	最新式し尿処理設備により大気中に放出していたメタンを回収・燃焼する
e7プータン小規模水力発電・CDMプロジェクト	ブータン王国	未電化地域に小規模水力発電所を建設
カンフェン15MW水力発電プロジェクト	中国	15MWの流れ込みしき水力発電所を建設
Caicirasランドフィルガス削減プロジェクト	ブラジル	ごみ埋立て場のランドフィルから発生するバイオガスを回収・燃焼し、温室効果ガスの削減を図る。
Graneros工場燃料転換プロジェクト	チリ	食品製造工場において、燃料を石炭および石油燃料から天然ガスに変換する。

### 【日本国政府承認プロジェクト例】

件名	実施国	概要
バイオマス発電プロジェクト	ホンジュラス	製糖過程で発生するサトウキビ残渣(バガス)を発電用燃料に利用する
ATB粉殻発電事業	タイ	廃棄・焼却処分されている粉殻を発電用燃料として有効利用する。

### 【各種炭素基金への参加例】

基金名	規模	電力業界の出資額【出資比率】	期間
世界銀行炭素基金(PCF)	約1.8億ドル(約207億円)	5,300万ドル(61億円)【29%】	2000.4～
日本温暖化ガス削減基金(JGRF)	約1.4億ドル(約161億円)	5,200万ドル(60億円)【37%】	2004.12～

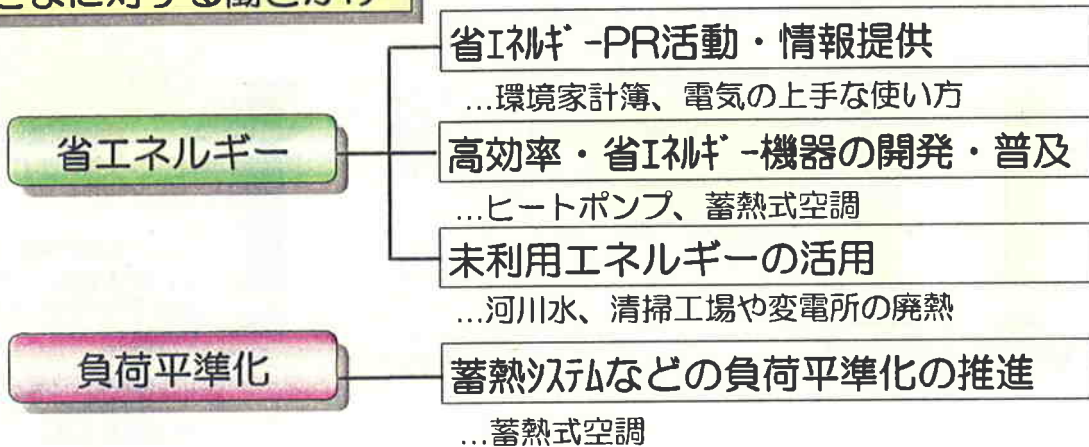
電気事業者は、目標に掲げているCO<sub>2</sub>排出原単位低減のみならず、**自らもオフィスビルや自家物流等のエネルギー消費削減、研究開発、森林整備等**に取り組むとともに、**お客さまにも省エネ機器導入の働きかけや様々な啓発活動を通じ、CO<sub>2</sub>の排出抑制を呼びかけています。**

## <CO<sub>2</sub>排出抑制に向けた取り組み>

### ○電気事業者自らの取り組み

オフィスビルや自家物流等のエネルギー消費削減、研究開発、森林整備 など

### ○お客さまに対する働きかけ



## 電気事業者自らの取り組み（オフィス利用）

○電気事業では、従来、**オフィス利用に伴う電力消費量削減**、および、**自家物流輸送に伴う燃料消費量削減**対策を進め、積極的にCO<sub>2</sub>抑制対策に取り組んできました。

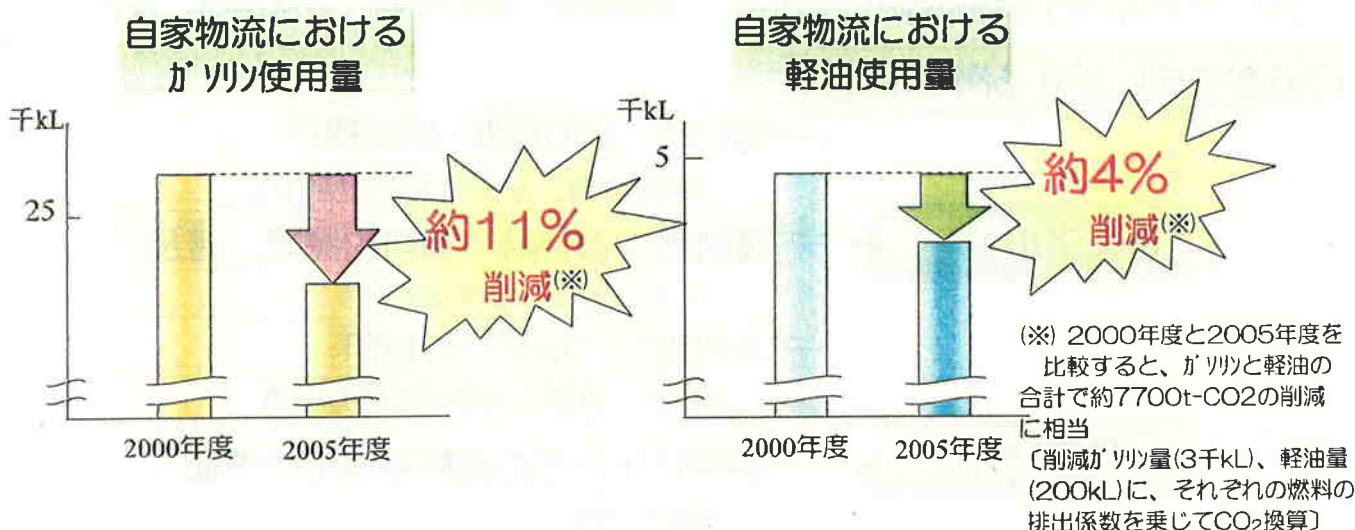
### <オフィスでの主な取り組みと実績>

- 「チーム・マイナス6%」への電事連関係12社の参加
- 空調の効率運転（室温の適正管理、使用時間の短縮等）
- 昼休み・時間外の消灯徹底、間引き点灯の実施
- 階段使用の励行によるエレベーター使用削減
- OA機器、照明器具等の省エネ機器への変更や不使用時の電源断
- コピー・プリンター用紙の使用量削減 他



## ＜自家物流輸送での主な取組みと実績＞

- 低公害・低燃費車両の導入（約9,100台導入）
- 低燃費運転の励行
- 効率的な車輛運行
- 石炭センターの集約化や石炭輸送船の大型化による物流効率化
- グループ会社全体での共同配送による物流効率化 他

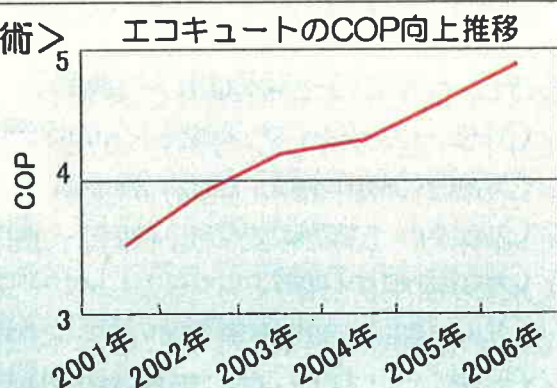


# 電気事業者自らの取組み（研究開発）

- 地球温暖化問題へ対応するため、中長期的な視野に立って、**需要面、供給面及び環境保全における技術開発を進めています。**

## ＜電気を効率よくお使いいただくための技術＞

- 省エネやCO<sub>2</sub>削減に有効なCO<sub>2</sub>冷媒ヒートポンプ給湯機のさらなる技術開発を推進するとともに、その他のヒートポンプや蓄熱利用システムの高効率化、コンパクト化に向けて取り組んでいます。



## ＜CO<sub>2</sub>回収・固定技術＞

- CO<sub>2</sub>回収技術については実用化の見通しが得られていることから、改良・開発を継続的に実施します。また、CO<sub>2</sub>固定化技術については、長期的な視点に立ち、国内外の技術動向調査・評価を進めていきます。

## ＜クリーンコールテクノロジー＞

- エネルギーセキュリティの確保及び環境保全の観点から、供給安定性や経済性に優れた石炭を高効率に利用する**クリーンコールテクノロジーの一例として、石炭ガス化複合発電(IGCC)の開発**に取り組んでいます。

現在、実証機の建設を進めており、2007年度から信頼性、経済性及び運用特性を検証するための実証研究を行う予定です。